

# 最終回の攻撃 見せ場つくる

生光学園

2点を追う九回、生光  
 学園は、三塁から  
 敵失で1点を詰め寄っ  
 た。なお、三塁のチャ  
 ンスに、代打で出た3年  
 生の手塚が空振り三振に  
 倒れた。試合後、「ほん  
 まにがんばりと泣き崩れ  
 る手塚の肩をチームメー  
 トが抱き、「胸を張れ」  
 と声を掛けた。  
 2点を先制されたが、  
 五回に初回のレフト前打  
 イムリーで1点差とし  
 た。七回に再び2点差に  
 広げられ、迎えた八回の  
 1死一塁では、この日2  
 安打を放っている安藤に

期待が集まった。結果は  
 6-4-3のダブルプレ  
 ー。強打の左バッターは  
 「スライダーに泳いでし  
 まった。ふがいない」と  
 悔しがった。  
 九回は先頭打者のヒッ  
 トと次打者の四球で無死  
 一、二塁。ベンチは強攻  
 策を選んだものの、次打  
 者の5番福池が三振に終  
 わった。幸島監督は「送  
 りバントも頭をよぎった  
 が、福池の人間性を信じ  
 てヒッティングにかけ  
 た」と話した。  
 毎年のように上位に進  
 出している生光学園。追  
 い上げもわずかに及ば  
 ず、甲子園出場はまたし  
 てもならなかった。悲願  
 達成を信じ、青いユニホ  
 ームが歩みを止めること  
 はない。(吉村純志)

## 最速153km 速球で真っ向勝負 川勝 空人投手(生光学園)



### 夢の聖地へ挑戦続ける

ストリートを待っている打者  
 に、そのストリートを投げ込ん  
 でねじ伏せる。最速153kmの  
 剛速球で真っ向勝負し続けた剛  
 腕が準決勝で散った。  
 一回、中越え三塁打を浴び、1  
 死三塁。次打者の4球目のスク  
 イズに気付いてウエストしたホ  
 ールが、捕手も捕れない高い球

となり、先制点を奪われた。走  
 者のスタートが見えたから外そ  
 うとしたが、暴投になってしま  
 った。2死後、四球を出した  
 後にタイムリーを許し、初回に  
 2点のビハインドを背負った。  
 球数140球で完投した準々  
 決勝から中1日の登板。疲労  
 の色は隠せなかった。一回から  
 いつものような球威がなく、後  
 半は変化球主体に切り替えたも  
 のの、七回には鳴門の宮本にこ  
 の日2本目の三塁打を許し、ス  
 クイズで3点目をもぎ取られ  
 た。それでも八、九回は最後の  
 力を振り絞ってストリートで勝  
 負し、150kmをマーク。プラ  
 ンドをよめかせた。  
 今大会は4試合に登板して26  
 回を投げ、打たれたヒットは11  
 本、26三振を奪った。中でも鳴  
 門渦潮戦は圧巻だった。シード  
 校の強力打線に対し、ほぼ全て  
 を記録し、2安打で完封。スタ  
 チームを聖地に導けず、試合  
 後、「悔しい。疲れから球が走  
 らなかった」と肩を落とした。  
 甲子園に出ていれば大谷翔平の  
 スポットライ  
 トを浴びたに違いない。また2  
 年生。地道に力を蓄え、秋へ向  
 かう。



(吉村純志)